

民主化闘争情報

No. 881
2013年9月26日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

JR連合・JR北労組は、9月19日に発生したJR函館線大沼駅構内での貨物列車脱線事故およびその後の緊急点検によって判明したルール通りに線路補修がなされていなかったことに対し、9月24日、緊急的にJR北海道会社に申し入れを行った。

安全の再構築と企業風土改革をめざし、 JR北労組が緊急申し入れ

JR北労組は、背後要因を含めた事故原因と再発防止策確立にむけ、緊急的に申し入れを行った。JR北海道に働く者として、一連の事故および不祥事に関して、猛省を行うとともに、再発防止にむけ、労使で真摯な議論を行っていかねばならない。

「(政府関係者は)『労働組合の存在が強く、ガバナンスが効いていない』と語る」(日本経済新聞9月25日朝刊)

日本経済新聞9月25日朝刊では、「鉄道他社に比べ異常なほど頻発する事故の背景には、労使の断層の大きさが背景にあると指摘する声も多い」「(政府関係者は『労働組合の存在が強くガバナンス(統治)が効いていない』)との指摘が**あ**たほか、「経営幹部が『組合が言うことを聞かない』と漏らす」と驚くべき実態に触れている。

経営幹部が「言うことを聞かない」と嘆く組合とはどの組合か？

2011年に発生した、JR総連・北鉄労「アルコール検知器検査」拒否事件を振りかえれば、「言うことを聞かない」組合がどこかは明らかであろう。

JR総連・北鉄労の「アルコール検知器検査拒否」問題は 会社のガバナンス崩壊、安全軽視姿勢の象徴！

2011年、JR各社の中で唯一アルコール検知器検査が義務化されていないことおよび最大労組である北鉄労が組織的に検査を拒否していることが発覚。こうした事態に対し、JR連合・JR北労組は検査の義務化にむけ、会社に対し、毅然とした対応を求めて申し入れを行ったほか、実施を求める署名活動を行ったのだ。ある職場では「アルコール検査を完全に実施しない社員のみなさんへ」として、「前日に酒を飲んでいなければやらなくてもよいと拒否している社員については、世間の常識とお客様のニーズを十分認識され、積極的にアルコール検査を行って下さい」と異例の呼びかけを行っている。その後世論等もあり、現在は全員が検査を受けている模様だが、安全に対する北鉄労の姿勢と北鉄労に対する会社対応の弱さに疑問符をつけざるをえない。

**北鉄労組合員の皆さん、JR連合に結集・団結し、
国民・道民の信頼を取り戻そう！**